

会 議 録

1 会議名

令和6年度第2回上越市青少年健全育成センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 議事

- ① 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）
- ② 特別街頭指導の実施状況（公開）
- ③ P T A街頭指導体験の実施状況（公開）
- ④ 育成委員協議会研修会（公開）
- ⑤ 環境浄化活動（公開）
- ⑥ 健全育成活動＜社会を明るくする運動＞（公開）
- ⑦ 若者育成支援事業（公開）
- ⑧ その他（公開）

(2) 情報交換（公開）

3 開催日時

令和6年10月11日（金）午後2時から3時まで

4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟中会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員：若木直弘、山岸賢一、井部佐恵子、保坂亮一、曾我茂樹、北峰恵祐、
竹内恵市、本間久美子、佐々木百合子、山崎厚世
- ・事務局：上越市青少年健全育成センター 石田所長、仁田指導員、矢沢指導員

8 発言の内容

《議事》

- ・議題①：青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）

事務局より説明（資料 P1～P3）

若木委員：4月、5月の街頭指導結果の表について、4 主な内容の交通ルールの小学生の表が 3 になっている。しかし、3 注意・指導した延べ人数が 0 になっている。3 の表の数字が正しいのか、4 の表の数字が正しいのか。

事務局（石田所長）：手元に資料がないので確認してみる。おそらく 5 月は、小学生についての件数はなかったと記憶している。

- ・議題②：特別街頭指導の実施状況（公開）

事務局より説明（資料 P4）

質疑 なし

- ・議題③：PTA 街頭指導体験の実施状況（公開）

事務局より説明（資料 P5）

質疑 なし

- ・議題④育成委員協議会研修会（公開）

- ・議題⑤環境浄化活動（公開）

- ・議題⑥社会を明るくする運動（公開）

事務局より説明（資料 P6～8）：（まとめて審議）

質疑 なし

- ・議題⑦若者育成事業（公開）

事務局より説明（資料 P8～P10）

山岸委員：9 ページの(2)で 15 歳から 18 歳の相談者が 9 名、(3)の中で不登校傾向の相談が 7 名となっているが、中学生は何名ぐらいいたのか。また、市教委がいろいろな相談機関設けている中で、なぜ「Fit」だったのか、理由があれば教えてほしい。

事務局（矢沢指導員）：主に高校に入ってから不登校になったということで相談に来るケースが多くある。ただ、利用者の約 7 割が、中学校時代または小学校時代に不登校経験がある。

山岸委員：高校生になった年代の 15 歳で、中学生はいないと考えていいと理解した。

事務局（石田所長）：「Fit」は 15 歳以上の中学校終了後の人たちが対象で、相談者に

は高校へ行っていないとか中退したとかという人も含んでいる。

山岸委員：表記が15歳となっているが、高校生年代以上からの相談だと分かった。

山岸委員：不登校や引きこもりなどのため親の会が開催されている。いろいろなケースがあるのだろうと思うが、参加者には小学生、中学生の保護者もいるのか。

事務局（石田所長）：親の会は、小学生も中学生も高校生以上も対象としている。その時の参加人数によって、小・中・高以上といったグループを作っている。

事務局（矢沢指導員）：最近では、15歳以上とか20歳前後の保護者が多い。

山岸委員：15歳以上とは、先ほどの話のように高校生が多いのか。

事務局（矢沢指導員）：高校生の不登校の他に、高校を卒業してからという人が前は半数くらいいた。

事務局（石田所長）：年齢が上の人は、就学や就労など、これからどうしていこうかという悩みが多い傾向にある。

北峰会長：NHKのラジオで、ひきこもりの特集をやっていた。精神的な病気でこうなっている人と、そうでない人がいるようだが、ここへ来る若者はどのような状態なのか。

事務局（矢沢指導員）：病院や医療機関から紹介されてくる人もいる。少し特性があったり、病的なものがあったりする人が多い。

北峰会長：どこかに勤めたいとか、勤めることができないとか、職場が自分に合っているかとかのアドバイスはしているのか。

事務局（矢沢指導員）いろいろな就職の世話を積極的に支援するのではなく、あくまでも1歩踏み出すための手伝いという方法で、地域包括センターや若者サポートステーションなどと繋がって一緒にサポートしている。

事務局（仁田指導員）：昨日も隣の体育館でサポステが主催した就職説明会があった。15社ぐらい集まっており、職員が利用者に付き添って参加した。

事務局（矢沢指導員）：ライトシップという通信制の高校が来春開校するので、説明会に参加して情報を集めている。直接、各通信制高校へ出かけたり説明会に参加したりしながら情報収集をしている。

・議題⑧その他（公開）

事務局より説明（資料P11）

事務局より資料 P11 の脱字について修正説明。

表の上から 4 番目の会計年度任用職員期末・勤勉手当の「末」を追加。

北峰会長：この予算も年々削られているか。

事務局（石田所長）：若干減らすぐらいの考えで進めている。

北峰会長：減らしてもセンターの機能は維持できるか。

事務局（石田所長）：1 番支出が大きいのは人件費であるが、全体のバランスの中でやりくりしている。

北峰会長：地域青少年育成会議では、削る場所を削っても経費が掛かるものは掛かってしまうので、前年度より予算措置をしてもらった経過がある。市でも経費が上がっているのを分かっていると思う。機能を維持するには、やはり事務的なものが大変だと思うので、対応してほしい。

《情報交換》

山崎委員：（資料 2 参照）明日の催しだが、自殺が増えているということで、自殺に至るまでどんな感じだったとか、周りにできることはなかったとか、いろいろ責めたりしたとか、そういう心情も話題に取り上げてくれる講演会を開催する。その後、自死遺族の会があり、家族などが自死された方を呼んで話を聞くような機会になっており、当日参加可能である。併せて、CAP 上越の企画として、安心マップづくりを行っている。相談できる場所にはこんな所があると、実際体験した人とワークショップをしながらマップ作りに取り組んでいる。

佐々木委員：街頭指導の状況を見たり話を聞いたりして、夏の暑い中、皆さんへお疲れ様でしたとしか言いようがない。昔、私も中学校に子どもが行っている時に参加したことはあるが、なかなか声かけは難しいし、大変な仕事だと思う。

本間副会長：今週、ちょうど中学校の挨拶運動で、朝 7 時半から立哨した。黄色い帽子の子どもたちは、「おはようございます」と言うと、目を見て、ちゃんと挨拶してくれる。中高一貫校の子どもはちょっと恥ずかしがって、はにかんで挨拶をしないが、小学校の低学年は一人一人手挙げて、「おはようございます」とか言ってくれる。だから私もかえって元気をもらうこともある。また、今日びっくりしたのは、上越高校のサッカー部の男の子だと思うが、わっと

5人くらい来て、「おばさん、大変だね、寒いのにご苦労様。ありがとう」と言ってくれた。そして、信号待ちをしている時に、「俺、今日、30分しか寝てない」と話しかけてきたので、「彼女のことも心配して寝てなかったのかな」と言ったら、「違う、今日サウジアラビアとサッカーの試合があったので」と返してきたので、「じゃあ今日は早く帰って寝るんだよ。行ってらっしゃい」と送り出した。すると5人で手を挙げてくれた。何か私もすっかり元気をもらって朝帰ってきた。子どもたちも私が見ている目の前ではみんな元気で挨拶もしてくれるし、高校生も挨拶すればきっちりと挨拶を返してくれて、あまり悪いところは見えなくて良かった。

若木委員：南川小学校の子どもたちもあまり挨拶は良くないが、毎日校門で立って子どもたちを迎え入れている。来週に中学校区で挨拶運動があり、小学校3校、中学校1校で、中学校から卒業生や生活委員会やボランティアがそれぞれの3小学校で朝の挨拶運動をする。南川小学校にも卒業生を含めて30数名来てくれる。中学生の挨拶から小学生もいい挨拶になってくれたらいいなと思っている。

若木委員：小学校長会では、いくつかのワーキンググループを立ち上げている。例えば、働き方改革である。今年度は、登校児童の学習保障とか学校への復帰とかに力を入れている。各小学校長へのアンケートで現状とか課題などを洗い出して、教育委員会等とも連携しながら取り組んでいる。

本間副会長：南川小学校へは青パトで2ヶ月に1回ずつ行くが、子どもたちは必ず「こんにちは」と大変元気な声で返してくれる。だから、私たちも楽しみにしている学校だ。

山岸委員：中学校校長会も、小学校校長会と一緒に不登校のことについてワーキンググループの中で意見交換をして、市教委と今後の対応を協議している。中学校の現場の課題として、部活動の地域移行について、思うように進んでいないことがある。地域クラブ活動推進室が新設されて、学校と地域と間に入って進めているが、地域や保護者の方からなかなか理解してもらえない状況にある。また、どんなふうに進んでいるのかが正しく伝わっていないように感じている。小学校の現場も、中学校の部活動の地域移行についてあま

り分かっていないのが現状のように感じている。中学校の管理職は令和8年度から休日の部活動を行わないということに向けて、いろいろなことをイメージしながら進めているが、一般の教員があまりうまく理解してないというところも課題だと思っている。ここにいる皆さんからも地域に帰られた時に、現在の状況を話題にしてもらって、地域の受け皿が整備されていくとよいと思う。

北峰会長：福祉の原点は人権だと考えている。社会福祉協議会では、各小学校、中学校で福祉教育を推進し、疑似体験や災害時の対応など、福祉のいろいろなことを学べるようにしている。三和区では福祉教育で、人権や命を大切にすることを取り入れている。三和区では来年度小学校が1つになるので、3小学校が同じ体験ができるように、福祉教育の中に必ず人権教育を入れている。また、私は人権擁護委員としても、小学校で人権教室を行って、命を大事にすることを啓発している。そうすることによって、各地域が1本の線になる考える。また、ふれあい食堂にも関わり、運営を始めた。毎月は大変なので、年5回ほどである。先般、70名くらいの参加があり、中学校の生徒が15人程来てくれたようだ。お兄ちゃん、お姉ちゃんとして小さい子どもと遊んだり、活動の様子を見守ってくれたりしている。このように、三和の子どもは三和で育てることを、いろいろな皆さんの力をいただきながらやっている。我が地域の子どもは我が地域で育てていこうというのが原点になっており、いろいろ人たちが関わっていく中で、大きなものができていくのではなかろうかと思っている。健全な青少年を育てていくということが、このセンターの1つの役割でもある。皆さんもそれぞれ役割があると思うが、このことを大事にしていただきたい。

自死についても、僧侶であるので個人的に関心がある。宗派として自死に対応するため、ボランティアを育てて24時間対応でやっている。今の子どもたちは死んだら地獄に行くって話や閻魔様はどこにいるのかを知らないと思う。AIに地獄ってあるのか聞いたらどう回答するのか、今日聞いてみようと思っている。少し余談が長くなってしまったが、それぞれの場所で自分の命を大切しながらやっていきたいと思っている。

竹内委員：子ども会では11月10日に直江津の屋台会館で子どもたちと遊ぶ行事を企画している。中越地震の時に県子供会へ見舞金が全国から2,000万円ぐらい来た。今年、港町が津波にあったことでその対象になり、屋台会館で行事を行うことになった。チラシは明日か明後日以降に各教育委員会を通じて学校へ配布される。幼稚園と小学生が対象で、中学生も対象になっている。他にも、子どもに関わる行事をたくさんやっている。1つはオレンジキャップ隊で、子どもを学校へ迎えに行き連れてくるという活動をしている。しかし、だんだんと高齢化が進んで、もう来年ぐらいにはというようなところまでできている。交通安全運動も受け手がいない。この間、9月21日から30日まで4回か5回ぐらい各町内の交差点のような所で立っていた。自転車と車が並行して勢いよく入ってくると、どっちかが止まらなるとぶつかってしまうという、そのような場面も見受けられた。それで、子どもたちへ交通安全に気をつけるように話してほしい。最後は、10月26、27日に妙高自然の家で子どもたちと遊ぶような会も準備している。3市の5、6年生が対象で、4,000名ぐらいいるのだが、応募してきたのが10数名であった。

また、街頭指導活動では、もう少し若い層の人たちからお手伝いしていただければなど常々感じている。町内会長もやっているが、年齢的に高い人ばかりになってきて、若い人からどんどん町内を盛り上げてほしいと希望している。

9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL：025-544-4690

10 その他

別添の会議資料を併せてごらんください。